

# No. 1475

## 緑の町づくり

国土緑化運動の一つとして、2月29日東京・墨田区の東白鬚公園で「緑のまちづくり記念植樹」が行なわれました。中曽根首相をはじめ田川自治相、日立の女子バレーボール選手や地元の小学生らがケヤキ・シイの木など25本を植樹しました。学校や公園の緑化資金をつくる「緑の羽根運動」も昨年は5億円を超え緑への関心が強まっています。村に町に「あふれる緑の輪」を拡ろげたいものです。

## 大内山塾

三重県松阪市から国鉄紀勢線で2時間。三重県度会郡の小さな山村に「大内山塾」と呼ばれる塾がある。今この塾では中国からやってきた若者6人が、日本語や日本の文化、歴史、習慣を学んでいる。

講師は名古屋から大学の先生、それに地元の人々やボランティアの人々。マンツーマンに近い型で徹底した学習が行なわれている。この塾の創立者である内山正熊・慶応大学名誉教授は「第2次大戦を含めた戦争責任を考えた時、日本の中国に対する姿勢に不満を持っている。中国に対して少しでも報いたいという自分自身の気持があった」食事は当番制による自炊。美味しい中国料理が手際よく作られる。先程、塾の裏の小川で釣ったさかなも食卓の上にある。先生と若者が、毎日同じものをたべ、一緒に暮らすところからお互いの信頼関係も出来てくる。彼らは、先生がテーブルに着くまで、決して食事を始めようとしない。夜は自分たちの部屋で、遅くまで学習が続く。この塾の独特のシステムの一つ、半読半工。彼らは一週間のうち半分は地元の山へ入り働く。彼らの真面目さは村人の誰もが認めるところだ。「働く中で、生きた日本語を学ぶことに意義がある。先生との共同生活や村人との触れ合いの中で、本当の日本の姿を学びたい」という彼ら。内山先生を囲んで、楽しいだんらんの一時。将来、彼らは、日本と中国の友好発展のため、大きな役割を果たすことだろう。